

6 病害虫診断依頼結果

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
1月17日	いちご		選果場でいちごのダンボール内に2mm程度の微小な虫が複数見られるが何か？いちご圃場では被害は見られていない。	オオワラジカイガラムシなどのワタフキカイガラムシ科コナカイガラムシ科の幼虫と同定。オオワラジカイガラムシの1齢幼虫の発生時期・大きさとともに一致。樹木や鉢植えなどから移ってきた可能性が考えられる。
1月29日	ほうれんそう	壬生町助谷	根が途中から腐り簡単に抜ける。トンネル栽培での発生が目立つ。	定法により組織分離をした結果、 <i>Rhizoctonia</i> 属菌が分離された。ホウレンソウ株腐病と診断。
1月30日	いちご(とちおとめ)	小山市	果実表面にすす状の黒いかびが見られる。種子表面で目立つ。	定法により組織分離をした結果、主な病原菌は分離されず、ほ場の状況等からすす病(コナジラミ類等により発生する)に類似したものと判断。
2月1日	いちご(スカイベリー)	大田原市	果実表面にすす状の濃緑色～黒色のかびが見られる。	定法により組織分離をした結果、主な病原菌は分離されず、果実表面の傷んだ部分に二次的に菌が付着したものと判断。
2月7日	トルコギキョウ(セレブブルー)	小山市雨ヶ谷	葉巻症状が見られる。	PCRを実施した結果、TYLCVの増幅が確認され、葉巻病と診断。
2月7日	トルコギキョウ(サクラミチル)	下野市国分寺	葉巻症状が見られる。	PCRを実施した結果、TYLCVの増幅が確認され、葉巻病と診断。
2月14日	いちご(とちおとめ)	足利市	10月中旬頃から生育不良が見られ、後に外葉から枯れ上がる症状を呈する。症状がひどいものでは萎縮が見られる。	組織分離及び遺伝子診断の結果、 <i>Phytophthora cactorum</i> (イチゴ疫病)と診断。
2月15日	トマト	塩谷町	小葉の萎れ、葉縁の褐変が見られる。	イムノストリップ(Cmm)は陰性。組織分離ではかいよう病菌は確認されなかった。栽培環境等から生理的な葉先枯れと判断。
2月15日	カーネーション	那須塩原市	中断から下葉で葉の褐変が見られる。特定の品種(ひだまり)で特に発生が多いが、他の品種も若干の症状は見られる。	葉の観察及び定法により、菌分離を行ったが、病原菌等は確認されなかった。
2月15日	いちご(スカイベリー)	宇都宮市、上三川町	葉上に細菌病の症状に似た斑点、褐変が見られる。一部葉縁が赤褐色を呈するものも見られる。	検鏡、組織分離の結果、細菌や糸状菌は分離されず、生理障害(低温、乾燥等)の可能性が高いと判断。
2月15日	にら	栃木市	葉身の奇形、葉端から水浸状の症状。鱗茎部に褐変が認められる。	組織分離の結果、葉身、鱗茎部どちらからも同一の細菌が高率に分離された。また、鱗茎部からは <i>Fusarium</i> 属菌も分離された。
2月18日	なし	小山市	枝表面が不成形に窪み、黒変。黒星病の疑い。	検鏡、組織分離の結果、 <i>Diaporthe</i> 属菌(胴枯病菌)が高率に分離され、枝表面の傷んだ部分(降雹)に二次的に菌が侵入したものと判断。
2月18日	胡蝶蘭(パーク)		培地(パーク)に白色のカビが見られる。胡蝶蘭への影響はないと考えているがこのカビは何か？	担子菌類であり、木材腐朽菌(白色腐朽菌)であると診断。
2月19日	いちご(スカイベリー)	栃木市西方	葉上に細菌病の症状に似た斑点、褐変が見られる。一部葉縁が赤褐色を呈するものも見られる。	検鏡、組織分離の結果、細菌や糸状菌は分離されず、生理障害(低温、乾燥等)の可能性が高いと判断。
2月27日	いちご(スカイベリー)	宇都宮市	葉上に細菌病の症状に似た斑点、褐変が見られる。一部葉縁が赤褐色を呈するものも見られる。	検鏡、組織分離の結果、細菌や糸状菌は分離されず、生理障害(低温、乾燥等)の可能性が高いと判断。
2月28日	カーネーション		下葉から上位に黒色斑点が見られる。	葉の観察及び定法により、菌分離を行ったが、病原菌等は確認されなかった。
3月4日	トマト(CFハウス桃太郎はるか+ブロック)	宇都宮市氷室町	2/20頃から葉枯症状が発生、ハウス全体に広がってきている。4、5段あたりの葉に症状が発生している。	イムノストリップ(Cmm、Phyt、TMV)は陰性。検鏡による菌泥流出は見られなかった。
3月4日	トマト(CFハウス桃太郎はるか+スパイク)	宇都宮市平石	2/上頃から葉枯症状が発生。ハウスの谷間がひどく、4、5段から上の葉が枯れている。ハウス内、全体に広がっている。	イムノストリップ(Cmm、Phyt、TMV)は陰性。検鏡による菌泥流出は見られなかった。
3月4日	きゅうり(ハイグリーン22+ゆうゆう一輝黒)	上三川町	葉焼け症状が1月下旬頃から見られている。前作の抑制きゅうりでは、本症状は見られなかった。	PCR(MYSV、ZYMV、KGMV、CCYV、BPVY)は陰性。検鏡でも病原菌等は認められなかった。

3月6日	ユリ		特定の品種のみ、葉先とツボミに褐変が見られる。 つぼみの褐変については、3面の同一箇所と同様の褐変(カサブタ状)が見られる。	検鏡の結果、害虫による刺し傷や菌類は確認されなかった。 球根は低温で貯蔵するが、その時の気温が低いと同様の症状となることがある。 病害虫によるものではないと診断。
3月6日	ナス (式部+トナシム)	さくら市喜連川	1月頃から数十本程度、枯れ、萎れが見られる。 条続きで発生あり。	褐変部分の検鏡で細菌の噴出が確認された。イムノストリップ検定でも陽性であり、青枯病と診断。
3月7日	トマト	小山市	中段の葉位で黄化、苦土欠乏症が見られる。	遺伝子診断の結果、ToCV(トマト黄化病)に特異が検出さ的な増幅が認められ、トマト黄化病と診断。
3月22日	いちご	佐野・足利	新葉の奇形、葉縁の黄化、クラウン部の褐変が見られる。	検鏡、組織分離の結果、細菌や糸状菌は分離されなかった。症状から低温による障害(凍み症)の可能性が高いと判断。
3月22日	いちご	足利市	地上部の萎凋、枯死が見られる。	検鏡、組織分離の結果、炭疽病と診断。
3月28日	トマト (麗容+スパイク)	宇都宮	1株だけ葉枯れ症状が見られる。 周囲への広がりは見られない。	外観症状、検鏡により病害虫によるものではないと診断。
3月28日	いちご(とちおとめ)	宇都宮	親株の2株が冬越し後に枯死した。 枯死株の表面にはピンク色のかびが見られる。	定法により組織分離をした結果、低率ではあるが <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。 PCRした結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> であったが、いちご萎黄病ではなかった。 その他病原菌等は分離されなかったことや、本症状が外的要因により発生したものとも考えられたため、本症状は病害虫によるものではないと診断。
4月3日	ねぎ	宇都宮市	苗床で葉身に黄斑や紫黒色のカビが見られる。	外観症状と検鏡結果からべと病と診断。
4月5日	トルコギキョウ	足利市	葉の奇形や花首のコルク化など。アザミウマの寄生がみられる。	果樹研究所に依頼の結果、チャノキイロアザミウマ(新規系統)と判明。
4月8日	アジサイ	真岡市	地際部が黒変、萎凋が見られる。	検鏡、組織分離の結果、 <i>Phytophthora</i> 属による病害と診断。
4月9日	きゅうり	宇都宮市	葉の退緑黄化が見られる。	PCRの結果、退緑黄化病と診断。
4月10日	きゅうり	下野市	葉の退緑黄化が見られる。	PCRの結果、退緑黄化病と診断。
4月12日	トマト(麗容)	壬生町	株中断の退緑、黄化症状が見られる。	PCRの結果、トマト黄化病と診断。
4月12日	麦(シュンライ)	那須烏山市	葉に白いかすり模様が見られる。	症状の確認とELISA検定の結果、オオムギ縮萎縮病と診断。
4月16日	水稻(苗)	岩舟町	一部の籾回りに青灰色のカビが見られる。	カビの形状、色からトリコデルマ属菌と診断。
4月18日	水稻(苗)	茂木町	①一部の籾回りに青灰色のカビ。 ②苗が坪状に黄化、生育不良。	①カビの形状、色からトリコデルマ属菌と診断。 ②PCR検定の結果、苗立枯細菌病と診断。
4月19日	なし	芳賀農振管内	枝上に虫の寄生が見られる。	ジャコウアゲハの蛹。 加害も認められず害虫ではないと診断。
4月22日	スターチス	さくら市	地上部の萎凋、中心部の褐変が見られる。	組織分離の結果、特定の糸状菌が高率に分離(病原菌は不明)。
4月24日	いちご	都賀町定点	下葉の葉縁部からの枯れ込み、ネグサレセンチュウ被害の疑い。	根部、土壌から確認できず。ネグサレセンチュウではない。
4月25日	ユリ	宇都宮市	葉上に褐色斑点が見られる。	検鏡、組織分離の結果、病原菌は認められなかった。害虫(アザミウマ類もしくはカメムシ類)の食害と診断。

4月26日	しょうが	下野市	種茎の表面に白い菌糸、一部水浸状の腐敗が見られる。	検鏡、組織分離の結果、病原菌は認められなかった。表面の白い菌糸は病原菌以外の糸状菌が付着し、一部の水浸状の腐敗は傷口に二次的に侵入したと考えられた。
4月30日	いちご	佐野市	4月中旬にランナーの焼け症状を確認。ランナーのわきから出ている細いランナーに赤斑点や先枯れ症状が認められる。パイプの接触部分にも焼け症状が見られる。	検鏡及び定法による菌分離を行ったが病原菌等は認められなかった。ランナーがパイプ(高温)に接したことによる物理的な焼けが原因と考えられる。
4月30日	いちご	佐野市	葉柄が赤くなる症状が見られる。生育は順調で、問題ないが昨年センチュウの被害が確認されたことからセンチュウの症状なのかどうか確認をお願いしたい。	根部へのセンチュウの寄生は認められない。なお、根部周辺土壌からは、センチュウ類が分離されるが低密度であり、本症状との因果関係は不明。定法により根部からの菌分離を行ったが、病原菌等は認められなかった。
5月1日	いちご	真岡市古山	施設の一部で葉縁がひどく枯れ込んでいる。	土壌中からネグサレセンチュウを確認。近年はセンチュウを対象とした土壌消毒は行っていないかった。ネグサレセンチュウによる被害と診断。
5月1日	ナス(雨よけ)	さくら市	株の生育が悪く、枯死する株が散見される。地際部はややくびれ、一部の株元には白いカビが確認できる。	定法により菌分離を行った結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離され、 <i>Fusarium solani</i> 種複合体に含まれる <i>Fusarium</i> sp.の可能性が高いと考えられた。
5月8日	いちご(親株)	真岡市	株の萎凋、新葉の先枯れや萎縮、新葉の奇形が見られる。急性的な萎凋は見られない。	定法により組織分離を行った結果、 <i>Phytophthora</i> 属が高率に分離され、PCRの結果から <i>P.cactorum</i> による疫病と診断。
5月15日	ミズナ	藤岡町富吉	5月上旬頃から葉先の葉裏に白い斑点が見られ始めた。	外観症状と検鏡結果から白さび病と診断。
5月16日	トマト	栃木市	株全体の黄化、葉先の枯れが見られ、かきよう病の疑い。	イムノストリップ及びPCR結果から、トマトかきよう病であると診断。
5月20日	ミニトマト	上三川町	果実に黒褐色のえそ症状(ヘタの部分)。着色不良の果実も見られる(まだら果)。	イムノストリップ(CMV、TMV)は陰性。また、PCRの結果、 <i>Cucumovirus</i> 属は検出されなかった。病害の可能性は低く、生理障害と考えられた。
5月20日	ミニトマト	上三川町	葉のえそ症状。ほ場全体で地上部の枯れ上がりが見られる。	PCRの結果、 <i>Tobamovirus</i> は検出されなかった。病害の可能性は低く、生理障害と考えられた。
5月22日	なし	那須烏山市	葉が縮れ、多数の虫の寄生が見られる。	ナシハマキワタムシによる虫食い。虫食い内に薬剤が届かずに残ったものと思われる。
5月23日	いちご(親株)	鹿沼市	RW高設栽培。縮葉症状が見られる。同症状は、ランナーでも発生している。ペット内pHが一時期高くなっていた。	ランナー(苗)の経過観察の結果、症状は改善した。病害虫によるものではないと診断。
5月23日	いちご(親株)	鹿沼市	①株の萎凋。クラウン部の褐変。疫病の疑い。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、炭疽病と診断。
5月23日	いちご(親株)	鹿沼市	②株の萎凋。クラウン部の褐変。疫病の疑い。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、炭疽病と診断。
5月23日	いちご(親株)	鹿沼市	③株の萎凋。クラウン部の褐変。疫病の疑い。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、炭疽病と診断。
5月24日	トマト	大田原市宇田川	ほ場の一部でしおれと枯れ上がりが見られる。特に中段の葉が枯れている。根は白く健全に近い。維管束に褐変が見られる。毎年、多少の発生が見られていた。	イムノストリップ及びPCR結果から、トマトかきよう病であると診断。
5月24日	ナス	大田原市北野上	地際部のくびれが見られる。	定法による菌分離を行ったが病原菌等は認められなかった。

5月27日	いちご(親株)	宇都宮市国本	ランナー先端部の枯れが見られる。	検鏡した結果、病原菌等は認められなかった。 病害虫によるものではないと診断。
5月27日	トマト	宇都宮市氷室	3月下旬頃より一部、枯れ上がりが見られた。 台木によって症状に差がある(ドクターKとブロックでは、ドクターKが激しい)。 5月中旬頃より枯れ上がりの症状が激しくなり、最上位まで枯れ上がった。	サツマイモネコブセンチュウの寄生が見られた。 症状が激しくサツマイモネコブセンチュウの寄生が本症状の原因であると診断。
5月29日	きゃべつ	鹿沼市栃窪	ほ場の一部で坪状に生育が悪く枯れている株もある。	定法による菌分離を行った結果、枯れた茎部から <i>Alternaria</i> 属菌が高率に分離された。 なお、周辺株の葉等への病斑は認められない。 土壌のpH5.48、EC2.69
5月29日	にんじん	足利市川崎	にんじん根部に以前から食害がみられていた。ウジ虫状の幼虫が見られたため、確認をお願いしたい。	種の同定は幼虫では困難だが、加害痕、形態、発生時期を考慮するとハネオレバエ類と考えられる。成虫が得られ次第、横浜植物防疫所に同定依頼予定。
5月30日	しょうが		地上部の黄化、腐敗、生育不良が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。また、PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上からショウガ立枯病と診断。
5月31日	いちご(親株)	鹿沼市	株の急性萎凋。クラウン部の褐変が見られる。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。 PCRの結果、炭疽病と診断。
6月3日	にんにく	佐野市	萌芽が不揃い、欠株、生育不良が見られる。自家種で症状が発生。イモグサレセンチュウではないか？	被害部からセンチュウは確認されず。定法による菌分離を行った結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。
6月3日	いちご(親株)	真岡市	株の萎凋。エタノール簡易診断では菌が誘導されなかった。	イムノストリップ(Phyt)による検定結果から疫病と診断。
6月3日	いちご		花まわりに多数のダニが見られる。コナダニではないか？天敵は放飼したが、ハダニも天敵も見えない。	カブリダニ類の一種。土着の種が侵入し、花粉で増殖していると考えられる。
6月3日	アスパラガス	上三川町	定植1年目の株であるが、ほ場の所々が生育不良で細い茎しか出ず、黄化してきている。	外観症状と罹病部位の検鏡結果から、茎枯病と診断。
6月5日	ウメ	那須烏山市	葉に退緑症状が見られる。 ウメ輪紋ウイルスではないと思うが一応確認願いたい。	PPVの特異的プライマーによるRT-PCRを実施。 結果は陰性。
6月6日	スプレーマム	塩谷町	葉枯れ症状が見られる。 CSNVかどうか確認してほしい。	CSNVの特異的プライマーによるRT-PCRを実施。 結果は陰性。
6月10日	きゅうり	下野市	地上部の萎凋症状(青枯れ)が見られる。	イムノストリップ、PCRの結果、青枯病と診断。
6月11日	きゅうり	石橋町	地上部、根等に目立った病徴は認められない。 圃場内で萎れ、枯死株見られる。	維管束や根に褐変等は認められない。イムノストリップによる検定結果からCMVIによる急性萎凋症と診断。
6月11日	ナス	真岡市	株全体の萎れ、部分的な黄化。維管束(穂木)に褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Verticillium</i> 属菌が分離された。半身萎凋と診断。
6月12日	なし	野木町	昨年夏から樹勢が弱まっており、今年展葉はしたもののその後枯死。 他の場所に植えてもすぐに枯れてしまう。	温湿度を保ち経過観察したサンプル及び定法により菌分離を行った結果、 <i>Rosellinia</i> 属菌が高率に分離された。 白紋羽病であると診断。
6月12日	なし	宇都宮市	なしの徒長枝にまだら状の加害痕が見られるが、アザミウマか？	検鏡からニセナシサビダニによる被害と診断。
6月12日	きゅうり	下野市	一部の株で葉のまだら症状が見られる(株全体に症状)。	RT-PCR結果からキュウリ黄化えそ病と診断。
6月12日	いちご	高根沢町	果実や花まわりにダニが多数見られる。	形態観察からミヤコカブリダニと同定。放飼個体が高温で増殖したのと考えられる。

6月13日	日々草	小山市	アザミウマが多数寄生しており、葉の一部にえそ症状が見られる。	<i>Tospovirus</i> 、 <i>Fabavirus</i> のユニバーサルプライマーによるRT-PCRを実施したが特異的な増幅断片は認められなかった。新芽部分に多数のアザミウマが寄生したことが本症状の原因と考えられた。
6月13日	トルコギキョウ(エンゲージホワイト)	足利市	前作での発生は見られなかった。1番花での発生は見られなかったが、2番花で発生が見られるようになった(4~5月)。発生は、1品種で4~5%くらい。他品種でも少し症状が見られる。	イムノストリップ及びPCR検定結果から、青枯病であると診断。
6月13日	なし	佐野市	あきづき、豊水で新梢の葉にまだらに色が抜ける症状が現れている。周辺部にメクラガメのようなものがある。	被害部からニセナシサビダニが多くみられたため、本種の被害と診断。カメムシはヒメハナカメムシであり、サビダニを捕食していたと考えられる。
6月13日	いちご(親株)	大田原市	緩慢な株の萎凋。新葉の展開、ランナーの発生が悪い。クラウン部の褐変が見られる。	イムノストリップ(Phyt)は陽性。定法により組織分離を行った結果、 <i>Phytophthora</i> 属が高率に分離され、PCRの結果から <i>P.cactorum</i> による疫病と診断。
6月19日	トマト	宇都宮市	5月以降、ハウス内で葉枯れ症状や萎れを伴い枯れる株が見られるようになった(合計100株程度)。	維管束から菌泥が確認できる。イムノストリップにより青枯病と診断。
6月20日	ナス	栃木市	定植2~3週間後に葉色が淡くなった。上位葉ほど顕著に色が抜ける。	イムノストリップの検定結果、CMVによるモザイク病と診断。
6月20日	ナス	下野市	葉の退緑、縮葉の症状。定植直後にアブラムシ類が多発生。	イムノストリップ、PCRの結果、CMV、BBWVが陽性であり、CMVとBBWVの重複感染によるモザイク病・えそ斑点病と診断。
6月21日	にら(苗)	小山市	育苗床での生育不良。根が部分的に紅色を呈する。その他外観では病害の症状はない。	地下部から組織分離を実施した結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。状況等からニラ乾腐病の可能性が高いと診断。
6月21日	なす	佐野市	葉の萎縮症状。軽度の株は4本仕立ての1本だけの新葉に見られ株の生育は通常だが、株全体に発生している株は生育が悪い。発生率は1~2割程度で点在して発生している。	イムノストリップ CMV陰性。PCRで <i>Favavirus</i> (BBWV)、TAV陰性。葉には、若干のアザミウマとホコリダニが付着していた。症状からホコリダニの食害による症状であると診断。
6月21日	なす	佐野市	定植苗400株中2株で発生認められる(発生極わずか)。6月上旬くらいから急に黄化し始めた。接木部の穂木でくびれている。茎は褐変等は認められない。	定法により菌分離を行ったが、病原菌は検出されなかった。幼苗期に地際部をネキリムシ等に加害されたことが原因と考えられた。
6月21日	いちご(親株)	佐野市	外葉から枯れ上がり、株全体が萎凋。一部ランナーの葉に奇形が見られる。クラウン部は全体的に褐変が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上から萎黄病と診断。
6月21日	いちご(親株)	足利市	5月上旬から徐々に萎凋を呈し、葉の枯れ上がりは株によって異なる。クラウン部には全体的に褐変が見られる。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、炭疽病と診断。
6月24日	トマト(夏秋)(CFヨーク+スパイク)	宇都宮市(上河内)	ほ場内で青枯症状を呈し、枯死する株が見られる。地際から30cmくらいの位置まで導管の褐変が見られる(維管束からの菌泥の噴出は確認出来なかった)。	維管束組織の検鏡で菌泥が確認された。イムノストリップ 青枯病陽性。以上から青枯病と診断。
6月25日	いちご(スカイベリー)	鹿沼市	地上部の萎凋。クラウン部は全体的に褐変。	イムノストリップ(Phyt)は-。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、炭疽病と診断。

6月26日	りんどう	那須町	節間の詰まり(萎縮)、葉の黄化、葉先の枯れ、一部わき芽の叢生。同一の株の中に健全なものと萎縮したものが混在。根部には特に異常が見られない。	<i>Tospovirus</i> 、 <i>Fabavirus</i> のユニバーサルプライマー、およびMLOについてPCRを実施したが特異的な増幅断片は認められなかった。
6月26日	なす	大田原市	発生初期は、頂芽の葉の黄化萎縮、果実が不整形で固くなる症状が見られた。他のほ場よりも根の張りがやや悪い。その後、脇芽の黄化萎縮、生長点付近の葉は奇形、葉色の不良(まだら)が顕在化。発生ハウスは限定され、全体に見られるが、場所による程度の差がある。ヨコバイ類の発生はない。	イムノストリップ(CMV)は陰性。PCRの結果、BBWV、 <i>Phytoplasma</i> は陰性。抜き取った株の観察では新葉は回復。生理障害と判断。
6月27日	じゃがいも	矢板市	表皮がかさぶた状になっている。表皮表面に軽微な食害を受けた痕跡あり。	原因は特定出来ないが、じゃがいもの肥大初期に何らかの害虫に表皮が食害を受けたものと推察。
6月27日	だいこん	矢板市	大根の地際部から下のだいこん内部が空洞となっている。	サンプルの状態が良くないため、病害虫及び生理障害によるものかどうか特定は出来なかった。
6月27日	トマト	矢板市	葉の一部に縮葉症状が見られる。	イムノストリップ CMV陽性。以上からCMVによるウイルス病であると診断。
6月27日	アスパラガス	上三川町	平成22年10月に定植したもので、欠株も多く、収量も上がらないため改植することにした。モグラの害も多かったがその他病害虫の感染がないかどうか確認してほしい。	株の腐敗が激しいため、原因の特定は出来なかった。なお、連作ほ場であること等から残渣の持ち出し処分と定植前の太陽熱消毒の徹底を指導。
6月27日	いちご(スカイベリー)	栃木市西方	地上部の萎凋。クラウン部は全体的に褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、イチゴ炭疽病と診断。
7月1日	トマト	小山市	地上部の萎凋、黄化。茎の髓部は部分的に空洞で維管束に褐変が見られる。また、太い根の中心部にも褐変が見られる。発生はハウス内で点在し、70aで100株程度。	イムノストリップ(Cmm、Rs)は陰性。組織分離では糸状菌は分離されず、 <i>Pseudomonas</i> 属菌が分離された。症状等から茎えそ細菌病と診断。
7月1日	いちご(親株)	佐野市	株全体の萎れ、クラウン部の褐変、新葉の奇形が見られる。圃場全体で微量要素欠乏のような新葉の葉脈間の黄化が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ萎黄病と診断。
7月4日	いちご(親株)	佐野市	株の萎れ、クラウン褐変。萎黄病のような奇形葉も見られる。発生が見られるハウスは、冬越しした後、プランターを広げる際の移動で、根が傷んだ可能性がある。冬越しした後もプランターを移動していないハウスは発生見られない。また、発病が見られるプランターの健全株のクラウンを切断すると凍み症の痕が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ萎黄病と診断。
7月4日	なす	佐野市	葉の表面が波打ち、萎縮し、えそ斑点が見られる。	PCRの結果、BBWVに特異的な増幅が認められた。以上からナスえそ斑点病と診断。
7月8日	トマト	宇都宮市	萎凋枯死株が見られる。	イムノストリップ及びPCR結果からトマトかいよう病と診断。
7月11日	じゃがいも	小山市	塊茎部の表面の裂皮。そうか病に似る症状が見られる。	高温乾燥による障害と診断。
7月16日	トマト	宇都宮市	6月上旬頃から枯れ上がりが目立つようになった。ハウス内の所々で発生が見られる。イムノストリップによる青枯病の診断結果は陰性(農振で実施)。	イムノストリップ及びPCR結果からトマトかいよう病と診断。

7月16日	りんご(ふじ)	鹿沼市	葉焼けのような症状は、6月17日頃から確認、品種は「ふじ」に多いが、その他の品種でも散見される。幼木や樹勢の弱い樹で多く、果そう葉で多いが、新梢葉にもある。	症状部分を検鏡すると <i>Alternaria</i> 属菌が非常に少ないが観察される。定法による分離をした結果、病原菌等は分離されなかった。根部の障害を含め何らかの生理障害であると診断。
7月18日	水稲(なすひかり)	塩谷町	葉の一部が黄変した株が散見される。(1カ所あたり1株ないし隣接する2、3株程度)	3株から縞症状の5、6葉をサンプリングし、RSVエライザ検定。2株はRSV陽性(縞葉枯病)、1株は陰性(生理的なストライプ症状と思われる)。
7月23日	なす	真岡市	葉の黄化、萎縮。草丈は伸びるが、果実が硬く、症状が進むと腐る。症状は6月上旬くらいからみられ、ほ場全体に散見される。	イムノストリップ(CMV)は陽性。PCRの結果、FabavirusおよびBBWVの増幅は認められなかった。CMV感染による症状と診断。
7月29日	にら		地上部の黄化、腐敗。表面に白色の菌糸と褐色の菌核が見られる。	症状、菌糸、菌核から白絹病と診断。
7月31日	トマト	宇都宮市	定植2ヶ月後から株の黄化が見られ、症状が出た株の維管束、根(中心部)には褐変が見られる。黄化症状は株の半分で見られる。ハウス内での発生は点在。	イムノストリップ(Cmm, Rs)は陰性。組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離され、PCRの結果からトマト萎凋病と診断。
8月2日	バラ(養液)	宇都宮市	下葉が黄化し、茎部分(地際部)が黒変して枯れ上がる。ハウス内で点在(異なるベットで発生)。	組織分離の結果、 <i>Phytophthora</i> 属菌が高率に分離された。イムノストリップ(Phyt)は陽性。バラ疫病と診断。
8月6日	いちご(なつおとめ)	那須塩原市	マルチ前後から葉縁の変色が始まり、葉全体に広がって枯れる。新葉も初期は健全であるが、次第に変色する。ハウス内全体で発生。根の傷みは少なく、クラウンの中心部に一部褐変が見られる。	検鏡、組織分離の結果、病原菌は認められなかった。肥培管理による障害と診断。
8月6日	ゆず		黒いすす状の斑点、かさぶた状のいぼが見られる。	表面傷の症状に該当する害虫はなかった。組織分離では、糸状菌は分離されず、細菌は <i>Bacillus</i> 属のみが分離された。病原菌が分離されなかったことから、病害虫によるものではないと診断。
8月7日	カーネーション		地上部の萎凋、下葉の葉先枯れ。地際は水浸状に腐敗。茎の中心部は黒色腐敗が見られる。	検鏡では、茎の病斑上に <i>Fusarium</i> 属菌の大型分生子が認められた。組織分離の結果、2種の <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。症状から立枯病と診断。
8月7日	カーネーション		地上部の萎凋、枯死。地際から根部にかけて褐変、水浸状に腐敗が見られる。7/18定植、株の3分の1程度枯死。	組織分離を行った結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。病徴と分離結果から、立枯病もしくは <i>F. solani</i> による病害と診断。
8月8日	なす	真岡市	定植後4日目あたりからしおれが発生し、軽微なものも含めて株数(1,750株)の約3割程度に見られる。発生はまばらであり、ベットによって発生が見られない畝もある。発生する場所は毎年同じである。	イムノストリップ(青枯病)陽性。以上の結果からナス青枯病と診断。
8月8日	バラ(養液)	鹿沼市	定植1か月後から下葉の黄化が見られる。気温の上昇に伴い黄化が進んだ。気温低下で症状は停滞する傾向が見られる。	組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が分離され、PCRの結果から <i>P. helicooides</i> による根腐病と診断。
8月9日	アスパラガス	上三川町	出芽した若茎の先端の縮れ、奇形が見られる。	根部の病害の可能性が考えられたが、根部のサンプルがなく、原因は明らかにできなかった。
8月9日	にら		葉身に白色斑点が見られる。	RT-PCRの結果、IYSVIに特異的な増幅が認められ、ニラえそ条斑病と診断。

8月12日	いちご(親株)	西方	奇形葉が見られる株と萎れが見られる株が散在している。	奇形葉株の組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ萎黄病と診断。なお、萎れ株については、目立った病徴もなく病原菌は検出されなかった。
8月12日	イロハモミジ		枝(幹)の黒変、症状が進むと上位が萎れ、ひどいものでは枯死。6月から徐々に発生が見られ、25株程度で発生(全体の5%程度)。地上部に所々傷が見られるが、表面だけにとどまっている。地下部の表皮下に白紋羽病菌のような菌糸が広がっている。	地上部の病斑部組織の検鏡では、胴枯病菌(<i>Diaporthe</i> 属)に似た菌が見られた。地下部の組織分離の結果、特定の糸状菌が高率に分離されたが、種は未同定。地上部および地下部で異なる菌が見られ、病原の特定はできなかった。
8月19日	いちご(親株)	佐野市	地上部の萎凋。青枯れ症状を呈し、葉柄の赤色化、葉の奇形は認められない。クラウン部(導管部)に不明瞭な褐変が見られるが、根部の傷みは少ない。株によって導管部から白色菌泥を噴出。	イムノストリップ(Rs)は陽性。組織分離の結果、特定の細菌が高率に分離され、PCRの結果、青枯病菌に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ青枯病と診断。
8月19日	いちご(親株)	黒羽	地上部の萎凋、根の褐変、黒変。クラウン部の全体、局部が褐変した株(炭疽病・疫病の症状に似る)、クラウンの導管部が不明瞭に褐変した株が見られる。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、検鏡では炭疽病菌、疫病菌は認められなかった。組織分離で特定の細菌が高率に分離され、PCRの結果、青枯病菌に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ青枯病と診断。
8月20日	トマト	宇都宮市	葉のえそ症状。ほ場全体で見られる。茎や果実での症状は見られない。ToMVの疑い。	RT-PCRの結果、ToMV、TAV(<i>Cucumovirus</i> 属)に特異的な増幅は認められなかった。
8月21日	いちご(親株)		株の萎れが見られる。クラウン部の褐変等は見られない。	病原菌等は検出されなかった。
8月23日	いちご(親株)	西方	株の萎れが見られる。クラウン部にしみ症が見られる。	病原菌等は検出されなかった。
8月27日	いちご(親株)	高根沢町	地上部の萎凋。①は新葉に奇形がみられ、萎黄病の疑い。②、③はクラウン部に明瞭な褐変等は認められない。	定法により組織分離をした結果、①は <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離されたが、②、③については病原菌は分離されなかった。①についてはPCRの結果、萎黄病菌に特異的な増幅が認められ、萎黄病と診断。②、③については生理障害と診断。
8月17日	なす		1.5mmほどの黒い大型のアザミウマが見られる。	クダアザミウマ類と同定。なすは加害しないことを伝える。
8月29日	いちご(親株)	宇都宮市雀の宮	ランナー先端は枯れないが、親株と太郎苗が枯れる。表面には <i>Fusarium</i> 属菌が観察される。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上から萎黄病と診断。
8月29日	いちご(親株)	佐野	奇形葉が見られる。	クラウン部に明瞭な褐変等は認められない。定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。PCRを実施したが <i>F.oxysporum</i> (イチゴ萎黄病)に特異的な増幅が認められないため、生理障害と診断。
8月29日	いちご(親株)	佐野	ランナーの枯れが見られる。	イムノストリップ(Rs)は陽性。PCRでも青枯病に特異的な増幅断片が認められる。以上の結果からイチゴ青枯病と診断。
8月30日	さくら	大田原市	8月中旬に黄変し始め、それ以降急激に葉の黄変が進んだ。葉の黄変は、果そう葉や進展の早い古い葉に見られる。PPVの症状に似ているため調べてほしいとの要請。	外観症状からPPVの可能性は低いと考えられた。RT-PCRを実施したが特異的な増幅断片は得られなかった。病害虫によるものではないと診断。

8月30日	いちご(親株)	黒羽	親株床において、ランナーや株の萎れ症状が見られる。	イムノストリップ(Rs)は陽性。PCRでも青枯病に特異的な増幅断片が認められる。以上の結果からイチゴ青枯病と診断。
9月2日	いちご(親株)	鹿沼市	葉上の黒点(表、裏)、葉柄の黒点。株によっては地上部の萎れ、クラウン部の褐変が見られる。	組織分離の結果、葉表の黒点およびクラウン部褐変から <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離され、PCRの結果からイチゴ炭疽病と診断。葉裏の黒点からは糸状菌、細菌は分離されなかった。葉裏の黒点は病害ではないと判断。
9月2日	いちご(定植苗)	佐野市	根とクラウンの褐変、地上部の萎れが見られる。発生は、遮光を外した8月下旬頃から見られるようになった。活着に時間のかかった苗(小苗)に多い。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。萎黄病菌、青枯病菌について、PCRを実施したが、特異的な増幅は認められなかった。以上から活着不良による生理障害であると診断。
9月2日	トマト(苗)	鹿沼市野沢町	苗の葉が黄化(45aハウスのうち2本)。維管束の褐変は見られない。	イムノストリップ(Rs)は陰性。組織分離の結果、病原菌等は検出されなかった。
9月3日	ナス	さくら市(氏家)	地上部の萎凋が見られる。	イムノストリップ(Rs)は陽性。ナス青枯病と診断。
9月3日	ナス	さくら市(喜連川)	地上部の萎凋が見られる。	イムノストリップ(Rs)は陽性。ナス青枯病と診断。
9月3日	トマト	栃木市	新葉の奇形(糸状)が見られる。	イムノストリップ(CMV)は陽性。トマトモザイク病と診断。
9月6日	トマト(セル苗)		セルトレイの縁側の苗が生育不良、葉枯れ等が見られる。	組織分離の結果、病原菌等は検出されなかった。
9月10日	いちご(定植苗)	佐野市	クラウン部はランナーピンを挿した当たりから黒く褐変している。クラウン切断面は外からの褐変が強い。根は一部根痛みが見られる	組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離され、PCRの結果からイチゴ炭疽病と診断。
9月10日	いちご(定植苗)	佐野市	クラウン部はランナーピンを挿した当たりから黒く褐変している。クラウン切断面は外からの褐変が強い。根は一部根痛みが見られる	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果からイチゴ萎黄病と診断。
9月10日	いちご(定植苗)	大田原	育苗床において、萎れて枯れてしまう株が散見される。	定法により組織分離をした結果、病原菌等は検出されなかった。活着不良等により枯れたものと考えられた。
9月10日	いちご(定植苗)	馬頭	育苗床において、萎れて枯れてしまう株が散見される。一部、奇形葉も見られる。	組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離され、PCRの結果からイチゴ炭疽病と診断。
9月10日	トルコギキョウ	佐野市	地上部の萎凋が見られる。	イムノストリップ(Rs)は陽性。青枯病と診断。
9月10日	キュウリ	小山市	葉のモザイク症状、萎凋。症状のひどいものでは、葉にモザイクと共に凹凸が見られる。	イムノストリップ(ZYMV)は陽性。PCRでもZYMVに特異的な増幅断片が認められる。以上の結果から、ZYMVによるキュウリモザイク病と診断。
9月11日	いちご(親株)	黒羽	親株床において、ランナーや株の萎れ症状が見られる。	イムノストリップ(Rs)は陽性。PCRでも青枯病に特異的な増幅断片が認められる。以上の結果からイチゴ青枯病と診断。発病株から少し離れた外観健全株は、イムノストリップ、PCRともに陰性。
9月11日	いちご	不明	葉縁から枯れる症状が見られる。	組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離され、PCRの結果からイチゴ炭疽病と診断。
9月11日	いちご	不明	葉に斑点型病斑(葉裏にもぬける)が多数見られる。炭疽病の斑点型病斑に酷似しているため確認してほしい。	組織分離の結果、黒点部から <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離され、PCRの結果からイチゴ炭疽病と診断。

9月11日	いちご (定植苗)	佐野市	新葉の奇形が見られる。これまでに同様の症状が発生したことがない。クラウン部に褐変は見られない。	組織分離の結果、病原菌(萎黄病、青枯病)は分離されなかった。生理的要因によるものと考えられた。
9月11日	いちご (定植苗)	佐野市	新葉の黄化と奇形が見られる。発生は2株のみ。クラウン部は全体が染み状に褐変(炭疽病、凍み症に似る)が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離されたが、PCRの結果では萎黄病菌に特異的な増幅は見られなかった。クラウン部の状況から活着不良によるものと考えられた。
9月11日	いちご (定植苗)	足利市	葉の表裏に黒色斑点が見られる。炭疽病(葉表)と葉害(葉裏)の可能性があり、葉の端には大型病斑のようなものも見られる。	検鏡で炭疽病菌の分生子が見られる。葉表の斑点からは <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離され、葉裏の斑点からは僅かに同菌が分離された。PCRの結果と併せてイチゴ炭疽病と診断。
9月12日	ケイトウ	那珂川町	降雨後に、花に黒いしみができて、そこから枯れてきた。ほ場内でスポット的に発生。	複数の糸状菌が分離されたが、原因菌であるかどうかは未特定。二次的に寄生した菌の可能性も考えられる。
9月12日	きゅうり(露地)	日光市	本品種は試作として圃場内に10本程度(主な品種はステータス夏Ⅲ)収穫初期から奇形果が多く、ほとんど販売できなかった。株の伸長が悪く、茎や着果している果実が腐敗することもあった。	イムノストリップ(ZYMV)で陽性。キュウリモザイク病(ZYMV)と診断。
9月16日	水稻(コシヒカリ)	小山市延島	出すくみ、葉身には黄色のハローに囲まれた楕円～不整形の黒褐色斑点が見える。	葉身の斑点に褐色棍棒型の分生子を確認、またELISA検定(RSV)も一部陽性。縞葉枯病とごま葉枯病の混発と診断。
9月17日	水稻(とちぎの星)	宇都宮市(旧河内町)	出すくみ、軽い縞症状が見られる。	ELISA検定(RSV)で陰性。
9月17日	水稻(あさひの夢)	岩舟町静戸	不稔及び出すくみ。出すくみ穂は2次分けつを発生して2段穂になっている。葉色は濃いだが、一部黄化症状も見られる。症状はほ場内の半分ぐらいに見られる。	出すくみ穂の下の節から菌が分離されるが、症状の原因菌であるかどうか不明。
9月17日	にら(ミラクルグリーンベルト)	鹿沼市	バルブや根に病徴は見られない。葉は、やや湾曲して、スジ状に黒く水浸状に腐敗が見られる。	バルブと根には、病徴認められない。葉の病斑部分からは、糸状菌が分離されるが本症状の原因菌であるかどうか不明であり、未同定。
9月18日	いちご	宇都宮市(上河内)	地上部の萎凋、根の黒変。萎凋株のクラウン部は染み状に褐変し、炭疽病や疫病の症状に似る。ランナー先端での萎れはない。発生は6株だけ。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離されたが、PCRの結果では萎黄病菌に特異的な増幅は見られなかった。
9月19日	トルコギキョウ	壬生町	白色(退緑)のえそ症状が見られる。	イムノストリップ(CMV)は陽性。CMVによるモザイク病と診断。
9月19日	トルコギキョウ	壬生町	生長点付近の萎縮が見られる。	顕微鏡観察の結果、アザミウマ類の寄生を確認。アザミウマによる被害と診断。
9月19日	カーネーション	大田原市	地上部の枯れ上がり症状(下から徐々に)。根部は腐敗して離脱。8月上旬の大雨時にハウス内がかん水状態となり、その後枯死株が目立つようになり、8割程度が枯死。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌、 <i>Pythium</i> 属菌が分離されたが、分離率は低く、発生状況から、根傷みによるものと診断。
9月20日	トマト	上三川町	茎、葉先の黒変、水浸状の腐敗。症状から細菌病の疑い。豪雨によりハウス内が冠水し、それ以降発生が見られる。	組織分離の結果、糸状菌は分離されず、2種の細菌が分離された。細菌の性状検査(API)の結果から、優先したコロニーは <i>Xanthomonas campestris</i> に該当。斑点細菌病の可能性が高いと診断。
9月20日	いちご (親株)	佐野市	株の萎凋、葉柄の黒斑が見られる。	検鏡で炭疽病菌の分生子が見られる。葉表の斑点からは <i>Colletotrichum</i> 属が高率に分離された。PCRの結果と併せて、イチゴ炭疽病と診断。

9月24日	いちご	上河内	枯死株を放置したものの表面に白いカビが見られる。 萎黄病であるかどうか確認してほしい。	PCRを実施したが <i>F.oxysporum</i> ではあるが、イチゴ萎黄病に特異的な増幅が認められない。本菌は、イチゴ萎黄病菌ではなく、二次的に寄生したものであると考えられる。
9月25日	にら(ミラクルグリーンベルト)	真岡市	8月上旬に葉の枯れる症状が見られ、雨が続きと症状がひどくなり、晴れの日が続くと回復する。ハウスは道路から一段低く、大雨時、水がかなり入った。発生は坪状にところどころ発生。中心から2~3枚目の葉に多く、やや湾曲して、スジ状に黒く水浸状に腐敗する。	バルブと根には、病徴認められない。葉の病斑部分からは、糸状菌が分離されるが本症状の原因菌であるかどうか不明であり、未同定。
9月25日	かぶ	下野市国分寺	茎葉に斑点が見られ、根には病徴等見られない。 降雨後に発生が多くなった。	検鏡により病斑部分から細菌が確認された。症状等から斑点細菌病と診断。
9月25日	いちご	壬生町	葉枯れ症状が見られ、一部の株では、萎れも見られる。	PCRの結果、 <i>Colletotrichum acutatum</i> の特異的な増幅断片が得られた。外観症状、菌分離、PCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
9月25日	いちご	壬生町	葉柄に陥没病斑が見られる。	PCRの結果、 <i>Colletotrichum acutatum</i> の特異的な増幅断片が得られた。外観症状、菌分離、PCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
9月26日	トルコギキョウ	足利市	葉巻き症状が見られ、葉巻病の感染が疑われる。	PCRの結果、葉巻病に特異的な増幅断片が得られた。外観症状、PCR結果からトルコギキョウ葉巻病と診断。
9月26日	トルコギキョウ	足利市	葉にえそ症状が見られる。	イムノストリップ(CMV)で陽性。モザイク病と診断。
9月27日	キウイフルーツ	大田原市	果実の腐敗、落下。落下した果実の表皮は硬く、内部は腐敗(乾腐症状)。	組織分離の結果、 <i>Diaporthe</i> 属(<i>Phomopsis</i> 属)が高率に分離された。症状、組織分離の結果からキウイフルーツ果実腐敗病と診断。
9月27日	いちご(苗)		新葉の奇形、クラウン部全体が褐変。 ※サンプルは数日放置されたため腐敗していた。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されず、原因は不明。
10月2日	いちご(親株)	黒羽	親株床において、ランナーや株の萎れ症状が見られる。	イムノストリップ(Rs)は、陰性。定法により菌分離を行ったが、病原菌等は検出されなかった。
10月2日	トルコギキョウ	小山市	下葉から萎れの症状が見られる。主根の表面が褐変し、地際部の維管束も一部褐変。	組織分離の結果、 <i>Rhizoctonia</i> 属菌が高率に分離された。株腐病と診断。
10月2日	キク	小山市	葉柄基部、地際部の腐敗症状。定植3日前頃から発生。	検鏡では <i>Fusarium</i> 属菌の分生子は確認されなかった。組織分離の結果、葉柄基部、地際部から <i>F.solani</i> ?が分離された。分離率が低く、病害以外の可能性も考えられた。
10月4日	葉ニンニク	大田原市	葉が黄化(ストライプ)し、激しくなると葉の中心に沿って縦に褐変が入る。	RT-PCRした結果、SLV、OYDV、GarV-A,B,C、D、LYSVの感染を確認した。本症状は、ウイルス病によるものであると診断。
10月4日	トマト	塩谷町	葉が茶色くなって枯れ、果実に粉状のものが見られる。サビダニ?	検鏡によりトマトサビダニを確認。高密度寄生がみられたことから原因と診断。
10月7日	いちご	宇都宮市雀宮	本ぼへの定植後に株の萎れ等が見られる。	組織分離およびPCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
10月8日	にら		株元が腐敗、ネダニの発生があるが、それ以外の病害の可能性はあるのか確認してほしい。	一部空洞化した根(古い根?)はあるが、バルブ内部には症状はなく、ネダニの寄生が多数見られたため、ネダニによる被害と診断。

10月8日	いちご	黒羽町	本ぼへの定植後に株の萎れや一部に奇形葉が見られる。	組織分離およびPCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
10月8日	いちご	河内	本ぼへの定植後に株の萎れが見られる。クラウンの下部は炭疽病、上部は萎黄病のように思える。なお、奇形葉等は見られない。	組織分離およびPCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
10月8日	いちご	真岡市	本ぼへの定植後に株の萎れ症状が見られる。	組織分離およびPCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
10月8日	にら	真岡市久下田	養成株および収穫株に白色条斑症状が見られる。ネギアザミウマによる食害痕は少なく、他の原因も疑っている。ニラえそ条斑病であるか確認してほしい。	RT-PCRの結果、IYSVに特異的な増幅は認められず、外観症状から白斑葉枯病と診断。
10月10日	トマト	上三川町	下葉(4枚程度)の黄化。黄化は葉先だけと全体に出ているものがある。昨年も発生し、発生は局在。	外観症状からウイルス病が考えられたが、ToCV、ToMVは検出されなかった。発生状況(場所、前作)から土壌要因による障害と診断。
10月10日	なす	益子町	しおれ症状を確認したのは、8月下旬頃であり、徐々に広がった(現在、定植株数1,620株の内、約120株を抜きとり処分)。	イムノストリップ(Rs)は陽性、PCR結果でも特異的な増幅が認められた。以上からナス青枯病と診断。
10月11日	トマト	高根沢町	頂芽がわずかに黄化、萎縮。黄化葉巻病か？	PCRの結果、黄化葉巻病に特異的な増幅断片が得られ、トマト黄化葉巻病と診断。
10月15日	トマト	上三川町	地上部の萎凋、芽かき部分から黄化。	組織分離の結果、糸状菌は分離されず、単一の細菌が分離された。細菌の性状検査(API)の結果から、 <i>Ralstonia solanacearum</i> に該当。青枯病と診断。
10月18日	トマト(麗容)	さくら市喜連川	頂芽の黄化、萎縮。黄化葉巻病？1,400本中100~200本発生。コナジラミは初期に少発生。	PCRの結果、黄化葉巻病に特異的な増幅断片が得られ、トマト黄化葉巻病と診断。
10月21日	レタス		台風による浸灌水後に萎れ株の発生が見られた(以前から萎れ株は散見?)。根基部は、くびれて折れている。	根基部に褐変が認められる。定法による組織分離で糸状菌が分離されるが本症状の原因菌であるかどうか不明であり、未同定。
10月21日	いちご	佐野市	新葉の黄化と奇形が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上から萎黄病と診断。
10月22日	トマト	宇都宮市	中位葉が黄化し、葉脈が茶色に壊死している。発生は3株のみで、畝の端の株に見られる(1株はやや離れた場所)。	外観症状からウイルス病が考えられたが、ToCV、ToMVは検出されなかった。発生状況(場所、前作)から土壌要因による障害と診断。
10月22日	いちご	壬生町	新葉の黄化と奇形が見られる。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。生理障害と診断。
10月29日	ホウレンソウ	日光市	台風通過前までは正常に生育していたが、ハウスを締め切った後(台風通過後)に葉上にえそ症状が発生。発生はハウス内全体で見られ、他の全てのハウスでも同様に発生が見られる。	検鏡の結果、糸状菌・細菌は見られなかった。後日別の生産者でも同様の症状が見られ、病害虫の可能性は低く、風害によるものと診断。
10月31日	みぶ菜	壬生町	展開葉に白色の斑点が発生。発生はほ場全体。	検鏡の結果、 <i>Pseudocercospora</i> 属菌が見られた(細菌の流出はなし)。症状と併せて白斑病と診断。
11月5日	いちご	大田原市	株の萎縮がみられており、萎黄病やセンチュウによる被害が疑われる。	土壌および根部からはセンチュウ類は認められなかった。

11月5日	いちご	大田原市	株の萎縮がみられており、萎黄病やセンチュウによる被害が疑われる。	定法により組織分離をした結果、わずかに <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。PCRの結果、特異的な増幅断片は認められなかった。外観症状、PCR結果等から病害虫によるものではなく生理的なものであると診断。
11月5日	トマト	芳賀町	葉や一部の果柄に褐変が見られる。全体的に葉かび病の発生は多い状況。	定法による組織分離で糸状菌が分離されるが本症状の原因菌であるかどうか不明であり、未同定。
11月7日	ソヨゴ(モチノキ)	那須塩原市	成木の一部分が落葉し、枝が枯死する。葉には黒色の小斑点が見られ、果実表面も黒変が見られる。	組織分離の結果、特定の糸状菌が高率に分離された。分離菌については未同定であるが、検鏡において葉、果実の病斑に同様の菌が観察された。
11月8日	きゅうり	湯津上	葉にえそ斑点やモザイク症状が見られる。発生場所は、ハウスの数カ所に点在。	RT-PCRの結果、MYSV、ZYMVの特異的な増幅断片が認められた。2種ウイルスの感染によるモザイク病と診断。
11月11日	トマト	栃木市	下葉から黄化し、葉脈が茶色に壊死している。	RT-PCRの結果、ToCVに特異的な増幅断片が認められた。トマト黄化病と診断。
11月14日	いちご	佐野市(大平町)	新葉の奇形や萎れが見られる。ハウスサイドの畝で点在して発生が見られ、中央部は比較的発生が少ない。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上から萎黄病と診断。
11月14日	きゅうり	喜連川	葉にえそ斑点症状が見られる。	RT-PCRの結果、MYSVの特異的な増幅断片が認められた。キュウリ黄化えそ病と診断。
11月14日	いちご(スカイベリー)	小山市	株の萎凋。萎凋株のクラウン部に褐変が見られる。	検鏡、組織分離およびPCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
11月14日	いちご	鹿沼市	株の萎縮、葉柄の折れ。クラウン部に褐変が見られる。	検鏡、組織分離およびPCR結果からイチゴ炭疽病と診断。
11月19日	いちご	鹿沼市	炭疽病発病株周辺の潜在感染の確認。	PCRの結果、炭疽病菌は検出されなかった。
11月21日	トマト(デルモンテ ぜいたくトマト)	矢板市富田	新葉の糸葉症状が見られ、上位に多い。ほ場内で数本発生。	イムノストリップ(CMV)は陰性。病害の可能性は低く、生理障害と診断。
11月21日	トマト(トキタ トマトベリー)	矢板市富田	葉脈間の退緑症状。茎の中央付近の葉で発生(新葉、主枝付近にはない)。台風のためビニールが切れて雨水が当たった所、扇風機の風が当たる所に発生が多い。	RT-PCRの結果、ToCVの特異的な増幅断片は認められなかった。病害の可能性は低く、雨滴および風による症状と診断。
11月21日	スプレーぎく(レサイバリーイロー)	矢板市乙畑	地際より少し上部から褐変、葉にも褐変が広がり、落葉する。茎の症状は表面のみで、茎内部には異常がなく、萎れ・枯死等には至らない。	定法により組織分離を行ったが、病原菌と考えられる菌等は分離されなかった。
11月26日	しょうが	下野市	冷蔵保存中の根茎の表面が白色のカビで覆われる。切断部は軟化・腐敗。根茎内部にも水浸状の症状が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌(3種)がわずかに、細菌2種(未同定)が高率に分離された。細菌による軟化・腐敗の可能性が考えられたが、収穫物だけであるため、原因は特定できなかった。
11月27日	ストック	那須町	葉上の白色斑点。ハウス全体で発生。	検鏡では、細菌・糸状菌は見られなかった。害虫の発生した痕跡も無かった。ウイルス病(CMV、BBWV、TuMV)についてRT-PCRを実施したが、いずれのウイルスも検出されなかった。農業の散布履歴から薬害と診断。
12月3日	トマト	鹿沼市	部分的(1株)に葉枯症状が見られた。	原因は、特定出来ないが、ほ場内で1株のみであり、生理障害による可能性が高いと診断。
12月3日	トマト	足利市	下葉の枯れ込みが連続して4株程度見られる。	根量が少なく、樹勢も弱い。しかし、病徴は認められない。一応、維管束からの菌分離を行ったが病原菌等は分離されなかった。生理障害による可能性が高いと診断。

12月4日	ミニトマト	宇都宮市	葉柄等に黒褐色のしみが見られる。	検鏡およびイムノストリップによる検定結果から疫病と診断。
12月4日	いちご	大田原市	頂果房の萎縮、褐変・コルク化が見られる。	発生部位を観察したが、病害虫の寄生は認められなかった。新葉・腋果房は健全に戻りつつあることから、病害虫の可能性は低いと診断。
12月5日	いちご	宇都宮市	収穫開始後に株の萎縮、新葉の黄化・奇形症状が見られる。発生は8棟のハウス全体で散見される。	組織分離の結果、 <i>Phytophthora</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>P.cactorum</i> に特異的な増幅が認められ、疫病と診断。
12月9日	トマト	壬生町	葉の退緑・モザイク症状。発生はハウス全体で1本。毎年数本発生が見られる。	イムノストリップ(CMV、TMV)は陰性。また、PCRの結果、TYLCVは検出されなかった。病害の可能性は低いと考えられた。
12月10日	しゅんぎく (おきく3号)	宇都宮市石井町	葉の黄化、その後萎凋。一度症状が出始めると、後から出てくる葉も同様の症状を呈する。ほ場中に点在。毎年発生。	イムノストリップ(CMV)では陰性。RT-PCRの結果では、 <i>Potyvirus</i> (TuMV等)および <i>Cucumovirus</i> (TAV等)についても陰性。生理障害の可能性が高いと診断。
12月10日	いちご	壬生町	新葉の小型化、黄化。ほ場全体で1%未満の発生。根は健全、クラウン部にわずかに褐変が見られる。	<i>Phytoplasma</i> は検出されなかった。生理障害の可能性が高いと診断。
12月12日	トマト	宇都宮市	葉・茎の表面の黒いスジ状の病斑。摘葉部分から組織内部に広がる。	組織分離の結果、単一の細菌が高率に分離された。細菌の性状検査(API)の結果から、 <i>Pseudomonas corrugata</i> に該当。茎えそ細菌病と診断。
12月12日	トマト	宇都宮市	葉上に黄色～褐色斑点、。発生部位は下葉に限定。	検鏡の結果、 <i>Pseudocercospora</i> 属菌の分生子が確認された。症状と併せてすすかび病と診断。
12月24日	トマト	宇都宮市	葉の奇形、株全体の退緑。発生は1株のみ。	イムノストリップ(CMV、TMV)は陰性。PCRの結果ではTYLCVも未検出。RT-PCRの結果、 <i>Cucumovirus</i> (CMV、TAV)に特異的な増幅が認められた。CMVによるウイルス病の可能性が高いと判断。
12月24日	トマト	宇都宮市	生長点付近の萎縮。ウイルス病のような症状が見られる。	イムノストリップ(CMV、TMV)は陰性。PCRの結果ではTYLCVも未検出。RT-PCRの結果、 <i>Cucumovirus</i> (CMV、TAV)に特異的な増幅が認められた。CMVによるウイルス病の可能性が高いと診断。
12月25日	キク(レミダス、セイグラフ)	塩谷町	茎および葉のえそ症状。中～下位葉でのみ症状が見られる。ベッド上でまんべんなく症状が見られる。萎れ症状は見られない。	イムノストリップ(TSWV、RS)は陰性。組織分離の結果、病原と見られる菌等は検出されなかった。生育初期のダニ等の加害によるものと考えられた。
12月27日	ニラ (ミラクルグリーンベルト)	鹿沼市	株の腐敗や葉のトロケ症状が見られる。	検鏡の結果ネダニの寄生が確認される。ネダニによる被害と診断。